

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	複雑系科学応用小委員会	主 査 名：朝山秀一 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：新宮清志
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・現代科学にパラダイムシフトをもたらしたといわれる複雑系科学は、経済学、社会学、電気、機械、海洋、宇宙、生物、医学など幅広い分野で応用され、これまで複雑で解明が不可能と思われていた現象を徐々に解明しつつあり、今後の成果が大いに期待されている。しかし、建築・都市分野においては、これまでの啓蒙活動により、ようやく複雑系科学が知ら始めた段階で、それを活用した事例はまだ少ない状況にある。そこで、こうした複雑系科学を建築・都市・社会の問題に具体的に適用して、これまで解明が困難であった事象を研究するとともに、それをベースとした建築・都市・社会を構築する設計システム及び設計事例を研究する。</p> <p>・2005 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の調査・事例収集開始 2 . 書籍「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)<仮称>」出版企画開始 3 . 「アルゴリズムミックデザイン特別研究委員会」設置申請 4 . 2006 年度建築学会大会研究協議会(もしくは PD)応募 <p>・2006 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 版企画書「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)<仮称>」執筆 2 . 企画・出版 WG、Algorithmic Design 調査研究 WG 設置申請 3 . 「アルゴリズムミックデザイン特別研究委員会」再設置申請(前年度不採択のため) 4 . 第 29 回情報シンポ研究集会開催 <p>・2007 年度(注：以下の活動計画は、2006 年度までの活動状況を踏まえて、修正した内容である。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 版企画書「複雑系アルゴリズムの建築と都市<改称>」執筆 2 . 企画・出版 WG、Algorithmic Design 調査研究 WG 設置申請 3 . Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の調査・事例収集継続 4 . 第 30 回情報シンポ研究集会開催 <p>・2008 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 書籍「複雑系アルゴリズムの建築と都市< 仮称>」のシンポジウム開催 2 . 展示会「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)展<改称>」開催 3 . 「複雑系アルゴリズムの建築・都市見学会<仮称>」実施 4 . 第 31 回情報シンポ研究集会開催 5 . 複雑系による新たな建築・都市・社会のデザインの方法と事例について会員相互の理解と啓発を深めて、小委員会活動を総括する。 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査 朝山秀一 東京電機大学 7618472 幹事 瀧澤重志 京都大学 9523322 池田靖史 慶応大学 0026470 大崎 純 京都大学 8510334 奥 俊信 北海道大学 7405244 兼田敏之 名古屋工業大学大学院 木村 謙 エーアンドエー(株) 9211470 佐藤祐介 (株)日本防災研究所 0336972 新宮清志 日本大学 6501309 谷本 潤 九州大学 8812451 堤 和敏 芝浦工業大学 8600757 堀池秀人 (株)堀池秀人都市・建築研究所 7618731 前 稔文 東京電機大学 9715149 藤井晴行 東京工業大学 8305527 三井和男 日本大学 7710305 渡辺 誠 アーキテクツ オフィス 841344</p>	

設置 WG (WG 名:目的)		
2006 年度予算	218,000 円	ホームページ公開の有無: 委員会 HP アドレス:

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 書籍「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)<仮称>」の目次を昨年度に続き、2 次案「複雑系アルゴリズムの建築と都市<仮称>」を作成したが、まだ十分に委員会活動の特色を反映できる内容に至らず継続的に検討することになった。</p> <p>2. 第 29 回情報・システム・利用シンポジウムにおいて、研究集会「感性とデザイン」を感性工学システム研究小委員会およびソフトコンピューティング研究小委員会と共同開催した。</p> <p>今年度は、残念ながら当初の活動計画に挙げた目標の 30%程度しか達成できなかった。この結果については、反省すべき点が多くあり、次の「委員会活動の問題点」に、来年度の委員会活動の内容修正として記述する。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 2006 年度の活動状況について 主査自身が本務多忙となったにも関わらず、主査の作業を分担する運営体制を築かなかったことが大いに反省され、2007 年度は、小委員会の幹事と作業の分担を図ることとした。</p> <p>2. 未達成な活動項目の見直し</p> <p>2.1 2006 年度の未達成な以下の活動項目を 2007 年度へ繰り下げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・版企画書「複雑系アルゴリズムの建築と都市<仮称>」執筆 ・企画・出版 WG、Algorithmic Design 調査研究 WG 設置申請 <p>2.2 2007 年度の活動計画の中で、以下の活動項目を 2008 年度へ繰り下げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍「複雑系アルゴリズムの建築と都市<仮称>」のシンポジウム開催 ・展示会「複雑系アルゴリズムの建築と都市展<仮称>」開催
その他	